

令和八年

松香 Komunikado

令和八年一月度 新年祭 ごあいさつ

分苑長 山本 健

Felicitan novan jaron

新年あけましておめでとうございます。本年も相変わ
りまして、よろしくお願い致します。

ただいまは、令和八年度の新年祭を、さすがしく斎行
させて頂きました。準備して下さった方々、又オンライン
を含め参拝して下さいました皆様方に、御礼申し上げます。
激動の令和五六七が終わりました。大神様のお仕
組みも、終了しているのではないかと思います。

一、開教一三四年 令和八年丙午 教主様新年ごあい
さつ より抜粋

〈前略〉本年は令和八年、丙午に当たります。「丙」

一月十一日発行

第三百三十四号

大本松香分苑

豊橋市南牛川二・三・二〇

電話 ファックス

〇五三二・六三・二一七三

発行責任者 山本 健

は、太陽が勢いよく昇り、ものごとが明るく伸び盛る
さまを表し、「午」は火気が最も強く、活力と前進の
力にみちることの象徴だとされています。この二つが
重なる丙午の年は、古来より、勢いが高まり、潜在し
ていた力が一気に開花するといわれており、熱く明る
い、陽の気に包まれるなか、世界も、大本のご神業も、
大和合をもつてよき流れで進展してゆく年となりま
すことを、心から願っております。〈中略〉綾機神社の
ご造営は人間心を越えた、水も漏らさぬ神さまのお経
緯ですが、それとともに、完成までのわずかな期間は
世界にとりまして、また人類にとりまして、とても
重要な期間であると存じます。〈中略〉基本宣伝歌に
「誠の力は世を救ふ」とありますように、開祖様が請
い願われた誠の人となり、神さまの手足となって

ご用に励み、ささやかでも自分の身の周りからみろくの世の穏やかな姿を共にづくりあげていく一年にしてまいりたいと存じます。〈後略〉と述べられていられます。綾機神社完成は令和九年秋の計画ですので、あと二年弱です。この期間が重要な期間であること、そして我々信徒は、大和合して誠の人になるように、強くお示しくださっております。みろくの上の誌の新年号に合わせて、昨年一年間の教主様のご挨拶がまとめられた冊子が同封されています。もう一度読み返して、教主様のご教導に従って、御魂を磨き、御用に役立たせていただきましょう！

二、松香分苑の今年度方針

「宣教活動と綾機神社ご造営のご奉仕」

松本先生並びに山本文子相談役が取り組まれた、「神様の存在とそのありがたさを一人でも多くの方にお伝えすること」を重点に取り組みたく思います。その為に、聖地参拝や大道場修行に、お知り合いの方を誘って参加されることをお願い致します。又、綾機神社ご造営の献金におきましても、無理のない範囲で出来る限りお願い致します。

三、分苑維持献金への協力をお願い

松香分苑神の家は平成十年十月十日に完成し早くも、二十八年目を迎えます。建物もまたエアコンなどの設備の老朽化も進んでおります。当分苑では建物の維持献金を、以前よりお願いして居り、出来れば毎月一世帯五百円をお願いしております。勿論、強制ではなく任意ですので、出来る範囲でご協力をお願い致します。

四、お知らせ

昨年、横山幽風（一美）様と岩間桂子様が大神様祖霊様を鎮祭されましたので、お知らせいたします。誠にめでたいことで御座います。

詳しくは、大神様祖霊様を鎮祭された、新入信徒紹介コーナーとして、つうしんに順次ご紹介予定です。幽風様は、プロの国際書家であり、多くの賞を受賞して居られます。幽風様には、新年祭の奉納行事として、この後、「言霊を書に託す儀式」を執り行っていただきます。

新入信徒紹介と新年祭での披露される儀式について

横山幽風（一美）様は、国際書家で、七歳で習字を始め、十三歳で日本を代表する書家に師事。以来、書の道に邁進し、中国山東省博物館出展、中国三蔵法師慈恩寺に写経奉納の他、数多くの芸術賞を受賞。2009年東京都美術館「日本刻字展」毎日新聞社賞受賞。

インドネシアの芸術学校開校式に日本の書家として招かれ、書道パフォーマンスを披露。

今回、山本から「松香分苑一同が、和合して、元気で宣教のご用に励まして頂けるように、何か言葉を書いていただけませんか」とお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。

今回の大本松香分苑の新年祭において！（幽風様より）

新しい年の始まりにあたり、本年が皆さま お一人おひとりにとって大きな飛躍と、実りに満ちた一年となります。まずよう祈念し、言霊を書に託す儀式を執り行います。書は祈りとともに生まれる「ことばのかたち」です。

その場に集う皆さまの想いと響き合いながら新しい一年への願いを言霊として顕してまいります。

どうぞ心静かにお立ち会いいただき、新年のはじまりのひとときをご一緒にお過ごしください。

大本松香分苑の「書の儀式」には、『善言美詞』を書きます。

一、場を浄化する「光の文字」になる。

筆に魂を込め、「善言美詞」と書くとき、その墨の跡からは清らかな靈気が放たれます。分苑に集まった方々がその文字を見るたびに、自分たちの使う言葉を振り返り、心が洗われるような気持ちになるでしょう。文字そのものが、一年間その場を守る「光の柱」となります。

二、運命を切り拓く「鍵」になる。

「始めに言葉ありき」というように、新しい年の始まりにこの言葉を掲げることが、「今年一年、私は善き言葉の種類としてまき、喜びの収穫を得ます」という神様への力強い誓いになります。上手くいくかどうかを案じるよりも、自ら発する言葉を美しく整える。それが、結果としてすべてを好転させる最短の道なのです。この様な理由から『善言美詞』を選びました♪